

「すべての人が救われるために…」

～十字架のメッセージに耳を傾ける～

「十字架の言(ことば)は、滅び行く者には愚かであるが、救(すくい)にあずかるわたしたちには、神の力である。…この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかなっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。…神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。」

コリント人への第一の手紙1章18:21・25節

「なぜ、キリストを神の知恵・力と呼べるのか。それは、十字架に現れた神の愚かさと弱さが、人間の知恵や力に勝って、真の救いをもたらす真の知恵・力だからである。」(注解書)

主イエス様は力によってこの世を支配しようとされたのではなく、愛と赦し、そして、弱さと死を通して世を救おうとされました。主はこの後、三日目に復活されました。しかし、その復活をこの世に現わしたのではなく、信じる者たちにだけ特別に現わされました。そして、その後、彼らの語るキリストの言葉を信じるかどうかによって救いを実現されるようになさいました。

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである(ヨハネ3:16)。」神様の願いは、この世の人々が一人も滅んで欲しくないということです。しかし、強制的に、一方的に救いを実現されようとはなさいません。あくまでも、双方向の応答を必要となさいます。

神様は私たちすべての人に、神様から渡された十字架を背負って歩くことを願っておられます。十字架とは、自分を処刑する道具です。自分を十字架につけて、自分の願いではなく、神の願いのために生きる道を選ぶということです。実はそれが私たちの救いにつながるのだということです。私たちは自分の願いのままに生きたならば、必ず滅びに向かいます。そうではなく、人間の造り主、メーカーであるお方が与えてくださる生き方に従って生きるならば、私たち人間は、人類は救いの道、平和の道を歩むことができるようになるのです。

なぜでしょうか？そうするならば、私たちが他者を赦し、受け入れられるようになるからです。自分の道の人々に押し付けることは決してしなくなるからです。神第一に生きるということはそういう道なのです。しかし、人類の歴史、キリスト教の歴史を見ても、その逆になることがほとんどだったように思います。そのことは深く悔い改めなければなりません。神第一に生きることを選んでも、いつしか、私たちはそのことを盾にして、自分の主張を押し通し、忍耐することをせず、かえって、他者を苦しめ、痛めつけることを繰り返してしまいました。

この世界のために主が語りかけたメッセージは何だったのでしょうか？それは、十字架上での第一声、「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。その赦しの言葉を最も必要としているのは、他でもない私たち一人一人なのです。